

<英語語法マスター⑱> 形容詞の語法⑤

① It is ~ that節と for A to V

It is (形) that ~ と It is (形) for A to V はどちらも同じ様に扱われるが、形容詞によってはどちらかの形をとるものと、両方の形をとるものとがある!

< that節を使うタイプ >

- ① () 「明らかな」 / ② () 「確かな」 / ③ () 「明らかな」
 ④ () 「ありそうな」 / ⑤ () 「明白な」 / ⑥ () 「明らかな」
 ⑦ () 「ありそうな」 / ⑧ () 「本当の」

[1] 「明らかな」「確かな」など「誰かが~した」という () について「本当」とか言っている!
 (例) ○ It is true that he is angry with her. 「彼が彼女に腹を
 × It is true for him to be angry with her. 立てているのは本当だ」

[2] () がなければ It is true to say ~. などの形は可能!

< for A to Vを使うタイプ >

- ① () 「危険な」 / ② () 「難しい」 / ③ () 「易しい」
 ④ () 「難しい」 / ⑤ () 「不可能な」 / ⑥ () 「可能な」

[1] 「易しい」「難しい」など「誰かが何かをする」ことに対して言っているので、実際にするのはわからない。() の話! → to V を使う!

(例) ○ It is impossible for him to master it. 「彼がそれをマスターするのは不可能だ」
 △ It is impossible that he masters it.

[2] possible, impossible が 「 . 」 の意味のときは () !
 (例) It is impossible that he ate it. 「彼がそれを食べたということはありません」

< 両方の形を使うタイプ >

- ① () / () 「驚くべき」 / ② () 「奇妙な」
 ③ () 「望ましい」※ / ④ () 「重要な」※
 ⑤ () 「当然の」 / ⑥ () 「必要な」※ などその他多数

[1] 「当然・驚き・遺憾」などの意を表す場合には、It is (形) that ~ の構文の that節中の動詞に () をつける。← 伊リス英語 ※印は(※)では仮定法現在(原形)

(例) It is natural for parents to love their children. 「親が子を愛するのは当然」

2 「人」を主語にする形容詞

< sorryタイプ >

- ① () 「怒った」/② () 「恥じて」/③ () 「喜んで」
④ () 「失望した」/⑤ () 「興奮した」
⑥ () 「喜んで」/⑦ () 「楽しい」/⑧ () 「喜んで」
⑨ () 「誇って」/⑩ () 「気の毒だ」/⑪ () 「驚いた」

[1] 上記の形容詞は①を主語にしてその①の () を表すので、It is ㊦ for A to V・It is ㊦ that~の構文には用いない。

(例) I am glad to meet you. 「私はあなたに会えて嬉しい」
× It is glad for me to meet you.

[2] ①を主語にした文では () の両方をとることができる。この to・that以下は両方とも () を示す。

< anxiousタイプ >

- ① () 「切望している」/② () 「切望している」
③ () 「熱望している」/④ () 「喜んでする」= ()

[1] 上記の形容詞は①を主語にして、その①の主体的意志・欲求を表す。Itや不定詞を主語にした構文には用いられない!

(例) He is anxious to see her. 「彼は彼女に会いたがっている」
× It is anxious for him to see her.

[2] () または () をとり、通例 () を用いる。ただし「喜んでする」の意味では () の形で表す。

㊦ anxiousやeagerは () の形でも用いる。

[3] 「未来」のことにに関する表現なので、完了形不定詞やthat節内に過去の文は来ない!

(例) I am eager for you to do the work. 「私は君がその仕事をやるよう切望する」
× I am eager for you to have done the work.

3 その他の注意すべき形容詞

- ① () 「
」← () は「(人)が厳しい」
② () 「
」←「人」がSだと